上田 あげた こうたろう

上田貢太郎県議会県政レポート　No.6

県政事務所
発行責任者：上田貢太郎
発行所：〒780-0025
高知市愛宕山105
電　話：088-873-2381
ＦＡＸ：088-874-5559

はじめに

昨年来のコロナ感染症拡大で、県民の皆様には長い我慢の日々が続いておりますが、本県でもワクチン接種が徐々に進み、集団免疫を期待したいところです。

まだまだ衰えを見せないコロナ感染症ですが、これからは知事や執行部、そして我々議員も一丸となって「攻めの姿勢・反転攻勢」に転じる決意でございます！

主な質問項目

1. 文化芸術と経済との融合
2. 企業版ふるさと納税
3. 横波スカイライン
4. 観光振興
5. スポーツ合宿
6. 経済影響対策
7. 中小企業・小規模事業者に対する支援策
8. 水素社会の実現
9. 木材の輸出
10. IOPプロジェクト

令和2年度9月議会・令和3年度3月議会質問より

文化芸術と経済との融合について

アニメーション映画「時をかける少女」などを代表作に持つヒットメーカー細田守監督の最新作で、仁淀川エリアを舞台にした「竜とそばかすの姫」が2021年7月16日に公開されます。

アニメ映画で聖地巡礼を社会現象化した「君の名は」のように、映画が地方創生にもたらす効果は大きなものとなることは以前にも申し上げましたが、現在、本県ではこの他にも高知を舞台にした複数の作品の映画化の動きがあります。

また、昨年3月議会で質問した牧野富太郎の朝ドラ化については、「朝ドラに牧野富太郎を」の会の皆様と共に、知事も東京のＮＨＫ放送センターを訪れ、要望活動を行った様に伺っております。

こうした要望活動等を通じて多くの作品を現実化し、本県の魅力を国内外に発信することは、大変重要なことと考えます。

Q　そこで、本県ゆかりの企画やロケ地となる作品が映画化された場合、今後はそうした作品とタイアップし、誘客の観光プロモーションに活かすべきだと考えるが、観光振興部長の所見を聞く。

A　観光振興部長　発信力のある映画やゆかりの作品を観光プロモーションに活用することは大変有効であり、誘客を図る際にも是非いかしたいと考えます。

例えば、本県と関西圏との双方にゆかりのある作品を活用したプロモーションとしては、昨年末に公開された坂本龍馬と岩崎弥太郎も登場し、大阪経済界の近代化に尽力した五代友厚が主人公の、映画「天外者」がございます。

この映画のプロモーションを大阪観光局が担っていた関係で、協定を結び、大阪中心部でのＰＲイベントには本県の観光ＰＲブースを出展予定でしたが、コロナ感染拡大で急遽中止となりました。ただ、こうした関係から今後は関西圏にゆかりのない作品でも、大阪観光局の情報発信拠点で高知のＰＲをさせて頂くことは十分可能だと考えます。

コロナ禍で多くの文化活動が中止となり、県民が文化芸術に触れる機会が減少するとともに、これらで生計を立てる皆様にとっても、反転攻勢に繋がる県の取り組みが求められています。

Q　県も、コロナ禍での文化芸術と経済との融合をより意識しながら戦略的な取り組みを進めるべきと考えるが、県の文化芸術振興ビジョンの位置づけを知事にお伺いしたい。

A　知事　本県の文化芸術振興ビジョンは平成29年に策定され、このビジョンにおいては四つの基本方針のうちの一つとして、文化芸術を活用した地域の振興という柱を掲げております。

これまでも、自然体験型キャンペーンなどの観光振興とのタイアップや、まんが甲子園の開催により本県の文化の発信とあわせて、交流人口の拡大に向けた取り組みの実施をしております。

来年度は、この10年計画ビジョンの折り返しの5年目で、基本的な理念などは維持しながらも、新型コロナウイルス感染症といった、社会経済情勢の変化などを踏まえた見直しをしたいと考えます。

また、産業振興などとの連携はご指摘も踏まえ、一層意識をして文化芸術の振興を経済の活性化につなげていくよう力を入れて参ります。

漫画は日本が世界に誇る文化の一つであり、本県は数多くの漫画家を輩出している漫画王国です。

昨年はコロナ禍の影響で、まんが甲子園もリモート開催となりましたが、オンラインはコロナ禍でも文化芸術の発信が可能であることが証明されました。

今後はオンライン配信などを駆使して、国内とわず、世界に発信していくべきではないでしょうか。

折しも「竜とそばかすの姿」が公開となれば、海外からの高知県への注目度は高まってきます。

土佐勤王党結成160年
～黒江S介 高知で「サムライせんせい」展～

【開催期間】2021年7月29日～9月20日
【開催場所】まんが館企画展示室
【休 館 日】毎週月曜日
（祝日・振替休日を除く）

Q　この好機に、国内外に広く本県の漫画文化を発信していくことは、インバウンドの増加、本県経済との融合にも繋がると考えるがどうか？

A　文化生活スポーツ部長　子園など漫画イベントは新型コロナウイルス感染症の影響により、通常の形式の開催はできなかったものの、新たな取り組みとしてオンラインを取り入れ、それとの親和性が高い漫画の特性を生かし、作品の募集やイベントのライブ配信を行うことで、漫画王国土佐を新たな形で国内外にＰＲできたと考えます。

また、本年度のまんが甲子園や世界まんがセンバツには、海外からの応募が例年以上に多く、オンラインでの漫画交流には大きな可能性があるものと受けとめております。

更に議員のお話にもありました、アニメ映画「竜とそばかすの姫」により、本県に対する注目が高まると見込まれ、漫画王国土佐をより身近に感じていただくことに期待するところです。

これらを踏まえ、来年度以降、国内外に向けたＰＲを行うことで、漫画を通じた高知県の認知度の向上や、アフターコロナの交流人口の拡大を図り、本県の経済の活性化につなげて参りたいと考えます。

●四国ジム初の新人王● 黒潮ジム・福永宇宙

プロボクシングの全日本新人王決定戦が2月21日、東京・後楽園ホールで行われ、スーパーバンタム級で黒潮ボクシングジムの福永宇宙（そら）選手（23）が判定勝ちをおさめた。昭和30年に大会が始まって以来、四国のジムに所属する選手が頂点に立つのは初めての快挙です。

Q　全国や世界の舞台で活躍する選手を本県から1人でも多く輩出するには、子供たちが夢に向かって取り組む日常的な活動の充実が必要だと思うが？

A　文化生活スポーツ部長　選手の育成を図るには、ジュニアからの系統的な育成強化や指導者の指導力の向上が重要であると考え、関係団体と連携し、各競技団体における組織的計画的な競技力強化取り組み、指導者の育成支援、高知県スポーツ科学センターを拠点としたスポーツ医科学面からのサポートの充実を図り、競技力の向上につなげて参ります。

2017年に水素基本戦略を策定し、水素社会の実現に向けた取り組みを進めております。

昨年12月に策定されたこのカーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略においても、水素をカーボンニュートラルのキーテクノロジーとして、車だけではなく幅広い分野での活用に向け、取り組みを進めていくとしております。

Q　カーボンニュートラルの実現を目指す本県においても、水素の活用といった視点も将来的なテーマとして取り入れていくべきではないかと考えますが？

A　林業振興環境部長　国においては水素社会の実現に向け、取り組みを加速していると承知しております。水素社会の実現につきましては、カーボンニュートラルの実現に資するものと考えておりますので、本県としても将来的なテーマとして水素の活用を検討していく必要があると考えております。

運転しても水しか排出しない燃料電池車は、移動の脱炭素化といった点からは非常に有効な選択肢ではないかと思います。

（一般社団法人）次世代自動車振興センターの調べでは、水素ステーションは全国137ヶ所、四国では徳島・香川で運用されており、本県でも、県民が燃料電池車を選択できる様に水素ステーションの設置を目指す共同会社を設立する動きもございます。

Q　本県もカーボンニュートラルの実現に向け、事業者の方々と連携し、水素ステーション設置の検討を始める時期と考えるが、県の方針を伺いたい。

A　林業振興環境部長　本県での水素利用の形、新たな成長の芽となる可能性の有無についての検討は非常に有意義であり、今後は外部有識者や意欲のある事業者等と協議の場を設けたいと考えます。

木材の輸出について

今年は東京オリンピックの年で、椪原町との縁が深い隅研吾先生設計の新国立競技場は、小さい角材が組み合わされ、巨大な屋根を支える事が出来ていると、先だってテレビ番組アナザースカイで紹介されていましたが、その姿がいよいよ世界に向けてアピールされます。

今や新しい建築は土佐の山間より出ずの時代であり、椪原町には海外からの視察が絶えないそうです。

Q　そこで、本県林業のさらなる攻めの姿勢やアメリカへの木材輸出の実績などについて伺いたい。

A　林業振興環境部長　現在、本県では木材の輸出についてはできるだけ付加価値をつけて輸出をするという考え方で、丸太の輸出よりは製品輸出に力を入れ、商談活動或いは木材のトライアル輸出について支援を行っています。

また、国内のアメリカ向け木材輸出については、住宅用の外構用フェンスに使われる製材品が輸出されており、高知新港からの輸出は昨年8月から始まり、輸出実績は昨年12月までの5ヶ月間で365立方、約1600万円となっています。

近年アメリカでは住宅着工が好調な一方で、中国から輸入してきた木材には貿易摩擦による関税が追加され、価格が上昇したことなどにより日本産の木材製品の輸入が増加しております。また、アメリカ西海岸では例年山火事が発生しており、特に昨年は東京都の面積の7倍以上の山林が燃え、木材資源が消失したことから、今後も日本産の製品の需要が高まってくることが想定されます。

木材の輸出に関しては、委員会でも度々提案して参りましたが、アメリカの木材輸出が今爆発的に伸びており、10月だけを見ても中国を抜いてアメリカがナンバーワンになっています。今こそ絶好のチャンスだと考えておりますので、是非、攻めの姿勢で取り組んで頂きたいと思います。

また、海外のニーズを見ると中国では比較的安価な九州のスギが好まれる一方で、韓国では価格が高くてもより品質や香りのよい高知県産のヒノキが求められることがあるなど、国や事業者によって日本産木材へのニーズは様々です。

Q　こうした現地の事情に詳しい方をパートナーとして迎え、高知県産の木材の輸出の可能性が高い国の情報を分析し、輸出のための戦略を練ることが必要だと思うが、どうか。

A　林業振興環境部長　これまでの輸出戦略につきましては、海外の情報分析、輸出事業者への支援といったことをジェトロ高知貿易情報センターと連携して県が行っております。

令和2年8月には、高知県木材協会とジェトロ高知の共催で、木材輸出の状況などセミナーを開催しております。アメリカ向けの輸出に取り組む団体には、木材貿易の豊富な経験を有する方がおられ、現在その方が中心となってアメリカ向けの製品輸出の体制づくりを戦略的に進めております。

ＩＯＰプロジェクトについて

研究スタートから約2年、その柱としてハウス内の環境データや作物の生育データなど、様々な農業関連情報を集約しデータ共有基盤となるＩｏＰクラウドが、現在、設計段階から構築段階に入り、今年度中にはプロトタイプが完成する予定であり、クラウド名も土佐の郷土料理にちなみ『ＳＡＷＡＣＨＩ（皿鉢）』と命名されたそうです。

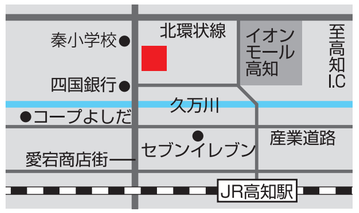
進化するＩｏＰプロジェクトなら、新たな産業の創出にも貢献でき、多くの研究者も高知を目指す可能性もあり、これまでとはひと味違う移住政策にも繋がると考えます。

Q　ＩｏＰプロジェクトが、これまでの基幹産業である農業をイノベーションしていく事により、若者が高知で暮らし、稼げる姿が実現すると考えるが、所見を聞く。

A　農業振興部長　きな柱として取り組んでおりますＩｏＰプロジェクトにつきましては、現在その核となるデータ共有基盤、ＩｏＰクラウドの開発を進めているところです。年内には本格的な実証段階を迎えることとなります。

このクラウドに集積されるビッグデータを分析、活用することで、全ての施設園芸農家の方が「もっと楽しく！もっと楽に！もっと儲かる！農業」を実現できるものと考えております。

本県で進めております全国に類のない最先端のＩｏＰプロジェクトを全国に発信し、積極的にＰＲしていくことで、高知県で最先端の農業を始めてみたいといった若者を呼び込み、本県農業の活性化につなげてまいります。

上田 こうたろう
県政事務所
TEL.088-873-2381
FAX.088-855-3088
facebook は「上田 貢太郎」で検索！

〒780-0025 高知市愛宕山105